

実現へ全力

- コロナで困っている人に直接支援を。コロナ封じ込めへ大規模検査を。
- 医療機関へ支援を。国立病院機構松江医療センターや地域医療機能推進機構玉造(旧玉造厚生年金病院)の再編・統合撤回を。国保・介護保険の負担軽減を。
- 子どもの通院医療費は中学卒業まで無料に。給食費は無料に。学費半減を。
- 島根原発再稼働ストップ。消費税5%へ減税。75才以上の医療費値上げ中止。
- 性差別をなくしジェンダー平等社会実現。選択できる夫婦別姓制度を。

舟木 けんじ

事務所/東津田町1186-2-1F
電話0852-67-7676

子どもたちを
守って38年・教師

日本共産党

略歴 ●1960年松江市生まれ。乃木小、松江三中、松江南高、島根大学教育学部卒。
●小学校教員を経て、島根県教職員組合委員長、しまね労連議長など歴任。
●東津田町在住。家族/妻、長男夫婦、孫2人(「けんじいさん」と呼ばれる)、猫3匹と同居。●趣味・読書(重松清、井上ひさし、浅田次郎のファン)、音楽・映画鑑賞。

証紙

コロナのちを守る、原発ゼロ



3つの思いでがんばる

舟木けんじに1票を

1 「お金の心配なく学べる社会」こそ私の教師としての原点

コロナから子どもたちを守る

私は、小学校教諭の初任のころ、「〇〇ちゃんが給食を食べたくないと言ってるよ」と聞いたので、わけを聞こうと近づくと、その子は教室を飛び出しました。

追いかけて聞くと、「お家の人がお金がなくて大変と話していた。自分が給食を食べなければお金

をかけなくてすむ」と泣きながら話してくれました。

「お金の心配なく学べる社会」こそ、私の原点です。

コロナ禍のなか、「貧困から子どもたちを守る。給食費は無料に」——この思いで、私は市議に挑戦します。

2 労働組合の経験いかし

働くものの命とくらしを守る

働きづめの父が、工事現場で脳こうそくで倒れ、会社を退職。退職金もない理不尽さに怒りをおぼえました。

「働くものを使い捨てることを許してはならない」——その後、私は労働組合の専従役員として、働くものの生活を守るために全力をあげてきました。

教職員の長時間労働など多忙化解消を求めて、県や市町村教育委員会と交渉し、「勤務時間の適正化」通知を出させました。

署名運動に取り組み、県は小中学校の少人数学級を実施。

医療・介護・保育など、コロナ禍で大変な思いをしている人たちの力にならねばと思います。



3 憲法9条改悪反対の一点で共同 野党共闘で政治変える

労働組合で沖縄平和ツアーに参加したとき、沖縄戦でひめゆり学徒だった人の話を聞きました。砲弾を受けた女学生が「天皇陛下万歳」と言って亡くなった話に、教育の恐ろしさを実感し、憲法9条は守らねばと思いました。

私は、2004年から「メイクピースの集い」の開催に力をつくして、9条改悪反対の一点で、共同を広げてきました。

戦争法反対から広がった野党共闘。その力を広げて、政治を変える力になりたいと思います。

舟木けんじ History



●松江市生まれ。家計苦しく、働きづめの父を見て育つ。
●身体を強くしたいと、小4から剣道をはじめ。学級委員、生徒会役員をつとめる。



●島根大学で人形劇などを見せるサークルに。子どもたちが反応し喜ぶ姿に感動。
●「どの子にも教育の光を」と小学校教諭としてがんばる。



●島根県教職員組合の専従役員となり、教職員の労働条件改善や子どもたちの教育環境をよくするために奔走。



●脳こうそくで倒れた父を、妻と二人三脚で20年余、在宅介護。その後、特養ホームにお世話になる。